

# ◆本物力を磨く人◆

## ◆桑名市女性消防団◆



女性消防団の皆さん。左から、松久幸代さん、岡田正子さん、内藤幸子さん、奥村幸子さん、後藤昌子さん(分団長)、服部恵さん、木村隆子さん(副分団長)、伊藤めぐみさん。ほか、2人の団員を加え総勢10人が在籍しています。

今後「桑名の本物力」になっていくかもしれない、キラリと光る原石を見つけ、不定期で紹介していきます。

桑名は昔から防災意識の高いまちです。

まさかのとき、身近な人同士、互いに守りあう。

そんな人が増えれば、桑名の力となるでしょう。

身近な人を助けられる  
自分でありたい！

桑名市女性消防団は、平成10年に結成され今年で20年になります。きっかけは阪神淡路大震災の際に救助が難航するなか、生き埋めや閉じ込められた人を助けたのは、6割が家族や隣人で「昼間に自宅にいることの多い女性が自分や周囲の人を守るように」という意識が全国に広がったことからです。女性消防団はAED（自動体外式除細動器）の使い方を教えたり、一人暮らしの高齢者のお宅を訪問したりしています。現在メンバーは10人。主婦、看護師、会社員など職種もさまざま、世代も幅広いからこそ、各自の特技を生かした活動が生まれています。女性ならではの温かく地道な活動は全国から高い評価を得ています。

消防団に加わった理由について「お世話になった人が亡くなったとき、泣くことしかできずに後悔したので、誰かの役に立ちたいと思ったんです」と内藤さん。服部さんは、消防団で覚えた応急手当が役立ち、交通事故にあった人などを偶然何度か救えたそうです。後藤さんは「住民の人に頼られることもある

## 自分のまちは自分で守る。 みんなで支えあえば心強い



子どもたちにAEDの指導



水防訓練に参加



毎月19日の夜に巡回広報



文化財を守るため消火器の指導



裁縫が得意な団員が作る、桑名のハマグリを使った防災啓発グッズ。一人暮らしの高齢者宅への訪問時にお渡ししています。

けれど、私一人ではみんなを助けられません。自分の命は自分で守れるようにならないと。消防団では、そうした知識を仲間と一緒に身につけられる。でもすべての人が消防団に入れないと思いますから、私たちは、みなさんが知識を増やすお手伝いもしています。たとえば寝るとき枕元に靴や非常用持出袋を置いておくとか、身近にできることがありますから」と語ります。

仕事や家庭に無理をしないで活動を続けられるように心掛け、災害時にもまず自分の家族を守ることを前提としている女性消防団。先輩団員の細やかな気配りを受け、新団員も楽しみながら学んでいます。人の役に立てたら、シンプルにうれしいもの。「緊急時に頼りになる自分」になってみませんか。大切な人やまちを、あなたが守れるように。

## 消防団では、随時

### 仲間を募集しています

18歳以上で、桑名市およびその近郊に居住しているか、または勤務している人なら年齢・性別・職業を問わず、消防団に入団することができます。特別職の地方公務員となります。

- ・消防団員としての役務に対し、階級ごとに年間一定の金額が報酬として支給されます。
- ・災害や訓練などに出勤した場合に手当てが支給されます。

- ・消防団を退団した場合には、在職年数および階級に応じて退職報償金が支給されます。



問 消防本部 総務課

☎ 24-5273 FAX 24-5287

女性消防団では、パソコンが得意な団員が特技を生かしてブログで情報発信中。日々の活動の様子が見られます。

HP <http://kuwanafw.exblog.jp/> (女性消防団)

この記事に関するお問い合わせは、秘書広報課  
☎ 24-1492 FAX 24-1119へ。